



平成 30 年 2 月 8 日

各 位

上 場 会 社 名 株 式 会 社 博 展  
 (コード番号：2173 東証 J A S D A Q)  
 本 社 所 在 地 東 京 都 中 央 区 築 地 一 丁 目 13 番 14 号  
 代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 田 口 徳 久  
 問 合 せ 先 取 締 役 経 営 本 部 長 田 中 雅 樹  
 電 話 番 号 0 3 ( 6 2 7 8 ) 0 0 1 0

### 通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 11 月 7 日に公表した通期業績予想を下記の通り修正すると共に、特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本日「配当予想の修正（増配）及び配当方針の変更（中間配当の実施）に関するお知らせ」を別紙にて公表いたしましたので、併せてご確認ください。

#### 記

#### 1. 通期業績予想の修正について

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,600	300	280	180	46 円 69 銭
今回発表予想 (B)	11,000	450	440	180	46 円 69 銭
増減額 (B - A)	400	150	160	0	
増減率 (%)	3.8	50.0	57.1	0.0	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 3 月期)	9,268	△253	△262	△369	△96 円 29 銭

平成 30 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	9,650	400	380	260	67 円 44 銭
今回発表予想 (B)	10,300	530	520	180	46 円 69 銭
増減額 (B - A)	650	130	140	△80	
増減率 (%)	6.7	32.5	36.8	△30.8	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 3 月期)	8,601	14	7	△251	△65 円 49 銭

## 差異および修正の理由

当社グループの平成 30 年 3 月期通期連結業績予想につきましては、展示会出展における受注件数の増加、イベントプロモーションや商環境における大型案件の受注による顧客単価の増加等、各商材別セグメントにおいて、順調に売上高が伸長したことにより、連結売上高について前回発表予想を上回る見通しです。

また、前述の要因により連結売上高が増加したことに加え、プロジェクト毎の利益確保に注力すべく、採算性を重視した業務オペレーションを厳格に実行したこと、販売費及び一般管理費を前年並みの水準に維持すべく、コスト管理の徹底に取り組んだこと等により、連結営業利益及び連結経常利益について前回発表予想を上方修正いたします。

しかしながら、下記「2. 特別損失の計上について」に記載の通り、当社の連結子会社であるタケロボ株式会社（以下「タケロボ」といいます。）における収益計画の遅れに伴う影響を踏まえ、特別損失を計上するに至ったことから、親会社株主に帰属する当期純利益については、前回発表予想を据え置いております。

なお、配当予想につきましては、本日公表しました「配当予想の修正（増配）及び配当方針の変更（中間配当の実施）に関するお知らせ」のとおり、平成 30 年 3 月期の期末配当予想を前回予想より 2 円増配の 1 株当たり 16 円に修正いたしております。

## 2. 特別損失の計上について

当社の連結子会社であるタケロボ株式会社（以下「タケロボ」といいます。）において進めておりますロボティクス事業について、労働人口減少に向けて AI 技術の活用ニーズが高まる中、AI 技術を搭載した新製品の投入や、AI 搭載ロボットを活用した新サービスの実証実験に参画する等、新たなマーケットを開拓すべく積極的な事業展開を図ってまいりました。しかしながら、本格導入に向けたテストマーケティングには想定以上の時間とコストが必要であり、ロボティクス事業の収益化には当初計画よりも時間を要する事が明らかになりました。

このような状況から、当社は、タケロボの収益計画の遅れに伴う影響を踏まえ、現時点におけるタケロボの株式取得時の投資価値を会計ルールに則り厳密に検討した結果、関係会社株式評価損 1 億 59 百万円を特別損失として計上することといたしました。なお、当該関係会社株式評価損は、連結決算上消去されるため、連結決算業績に与える影響はございません。

また、当社の個別決算において上記の関係会社評価損を計上することに伴い、連結決算において、連結上のみで識別されている無形固定資産及びのれんについて、減損損失 31 百万円、のれん償却額 31 百万円を特別損失に計上すると共に、タケロボの個別決算において、ソフトウェア及び工具器具備品等の固定資産について、減損損失 27 百万円を特別損失に計上することといたしました。

（注）本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上